



上衣(背面裏側・部分) / 多賀町山間部 / 個人蔵

特別協力 滋賀県立大学 ANTONINA KUON matohu NIMAI NITAI  
後援 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿  
中日新聞社 毎日新聞天津支局 読売新聞天津支局  
チラシデザイン協力: 滋賀県立大学 生活デザイン学科 徐慧研究室  
ご観覧にあたり、新型コロナウイルス感染予防・拡散防止に伴う、皆様のご理解とご協力をお願いします。

# 愛荘町立歴史文化博物館

〒529-1202 滋賀県愛知郡愛荘町松尾寺878番地 TEL 0749 (37) 4500 FAX 0749 (37) 4520

第33回企画展

# つぎはぎの仕事着

—暮らしが仕立てたデザイン—

2021.1.9 sat  
▼  
3.21 sun

開館時間 10:00~17:00 (入館は16:30まで)  
休館日 月・火曜日(※祝日は開館)  
2/12(金)、2/24(木)  
入館料 一般500円(250円)  
小中学生150円(100円)  
※()内は20名以上の団体料金  
無料入館日 1/23(土)・24(日)、2/20(土)・21(日)、3/13(土)・14(日)

第33回企画展

# つぎはぎの仕事着

—暮らしが仕立てたデザイン—



長着 / 多賀町山間部 / 個人蔵



股引 / 東近江市南花沢 / 個人蔵



カーディガン  
(昭和初期のボロを再利用した現代の作品)

昔の人々は、日常の労働によって仕事着が傷んでも、捨てることなく補修をし、長く着用しました。着ることができなくなった着物は縫い目を解いて大切に保管しておき、衣服に接ぎ当てるために使用しました。時には数代に渡って着用され、物を大切に作る心と共に次の世代へと受け継がれていきました。

人々の日常とともにあった仕事着は、労働の痕跡が見えるものもあり、当時の衣生活を知る上で重要な資料として注目されています。

また、補修しつぎはぎだらけとなった仕事着の色合いが偶然、パッチワークやビンテージジーンズのように、その美しさから近年国内外で「BORO」として人気を博しています。

展示会では湖東・湖北地域で発見された仕事着を中心に展示し、衣生活資料から見える労働生活を解説。また、滋賀県立大学や現代のファッションブランド(ANTONINA、KUON、matohu、NIMAI NITAI)に協力をいただき、つぎはぎに着想を得て制作した作品を展示。

現代の視点から芸術品としての仕事着の美しさを紹介いたします。

日本人の勤勉さと物を大切に作る心から生まれた、美しい仕事着のデザインをご鑑賞ください。

## 学芸員による展示解説

日時 1/24(日)、2/21(日)、3/14(日)  
10:30~13:30~  
場所 愛荘町立歴史文化博物館 企画展示室  
参加費 無料(要入館券)

# 愛荘町立歴史文化博物館

(金剛輪寺参道隣)

〒529-1202 滋賀県愛知郡愛荘町松尾寺878番地  
TEL.0749(37)4500 FAX.0749(37)4520  
<https://www.town.aisho.shiga.jp/hakubutsukan/>

アクセス 電車 JR福枝駅・近江鉄道愛知川駅、豊郷駅から 予約型乗合タクシー「愛のりタクシーあいしよ」[「金剛輪寺停留所」下車  
詳細は次の愛荘町ホームページを参照  
車 名神 湖東三山スマートインターチェンジより車で1分

ご観覧にあたり、新型コロナウイルス感染予防・拡散防止に伴う、皆様のご理解とご協力をお願いします。

- 手洗いやアルコール消毒にご協力ください。
- 発熱・咳込み等の症状がある方は、観覧をお控え下さい。
- マスクの持参・着用をお願いします。

